

令和4年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	3904	領域略称名	オルガネラゾーン
研究領域名	細胞機能を司るオルガネラ・ゾーンの解読		
領域代表者名 (所属等)	清水 重臣 (東京医科歯科大学・難治疾患研究所・教授)		

(評価結果)

A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの成果があった)

(評価結果の所見)

単一のオルガネラが複数の機能を有し、複数のオルガネラで一つの目的を担うことから、本研究領域では、オルガネラの限局された機能領域を「ゾーン」と命名し、従来のオルガネラ研究から、オルガネラ・ゾーン研究へと転換するという目標のもと研究が推進された。本研究領域では、オルガネラ・ゾーンを三つのゾーンに分類し、各計画研究が様々な生命現象において、30を超える「オルガネラ・ゾーン」がオルガネラ上(内)に存在することを示し、それらが生理学的に重要な機能ドメインを形成していることを明らかにした。オルガネラ・ゾーンという用語の普及の点では、まだ課題は残るものの、新学術領域の形成に至る重要な前進があったと評価でき、研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの成果があったと認められる。

研究期間後も開催されている月1回の定期セミナーによる領域内での研さんや、「オルガネラ・ゾーン若手の会」の定期開催など若手研究者の育成にも貢献しており、その積極的な取組は評価に値する。今後、オルガネラ・ゾーンの生物学的な意義や形成機構の更なる解明が進み、膜を持たないオルガネラとの相互作用に関する知見なども集積されることで、「ゾーン」という概念が確立されることが期待される。